

行事報告

広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業—CIS 活動報告(インド)

広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業 極限環境対応グローバル接合部門
特任准教授 勝又 美穂子

2015年9月13日~9月27日の期間で、インド・バルーチとダヘージにおいて昨年度に引き続き2度目となるCIS（カップリング・インターンシップ）を実施しました。インドでのパートナー大学はインド工科大学ハイデラバード校であり、4名の参加学生はハイデラバードから飛行機で約3時間かけ集合しました。バルーチは、デリーから西に飛行機で1時間ほどに位置するバドーダラから更にバスで1時間半の町です。そこを宿泊拠点とし、2日間実施した事前研修（日系企業理念、CSR、5S、QCサークル活動、コミュニケーション、接合基礎などの講義）の後、5日間の行程でISGEC/日立造船が工場を構えるダヘージにて企業実習を行いました。ダヘージへは毎日片道1時間かけてバルーチから通いますが、道路は決して良好ではなく、雨が降ればより状態が悪化するという中、日本人学生にとってはそれだけでも海外における業務の大変さを経験することになりました。ISGEC/日立造船での実習では、会社紹介、人事部、プランニング部、プロジェクト部、デザイン部、溶接部他、各部署からの業務説明を始め、製品積み込み港の訪問など、製造工程から製品輸送までを細かく学びました。他方、ショップで作業をする技術者やオフィススタッフへのインタビューの機会もあり、「人生で最も大切なことは何か」という質問に例外なく「家族」

と返ってくる答えに、一般的な日本人との考え方の相違、その理由で異なる仕事への姿勢、モチベーションの持ち方などについて協議を深める場面もありました。

最終報告会には、ISGEC/日立造船の Harbir プロジェクト部長、Ranjan 人事部長始め社員の方々、日立造船デリー事務所より山田様、峰川様、そして IITH から Sharma 准教授、IITH 拠点の JICA フレンドシップ事業業務調整員の松尾様などの参加がありました。学生は2週間を通して「多文化、多言語環境におけるコミュニケーションの課題と対策」という課題に取り組みましたが、安全対策のためのショップにおけるボディーサインの統一や、社員のモチベーション向上のために、完成品と共に全員で写真を撮り掲示するなどの具体的な提案も多くあり、ISGEC/日立造船からはすぐ実行したいとのコメントがありました。最終的に両チーム共、分野・文化の異なる自分達もそうであった様に、文化、相違、その背景などを互いに十分に理解し合うことが良好なコミュニケーション、関係性を維持することに最も重要だとの結論に達しました。

学生達は滞在中、インドで流行する音楽や映画、ダンス、俳優などの話題で盛り上がるなど、言語の壁を乗り越え、強い信頼と連帯感を築きました。

